実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

美萩野保健衛生学院

教育内容	学　　科　　目	講　師　氏　名	単位数	単位数	時間数
歯科衛生士概論	歯科衛生士概論	喜佐田　由美	2	2 単位	30
臨床歯科医学	歯科臨床概論	永松　浩	9	1 単位	30
	保存修復学	吉居　慎二		1 単位	30
	歯内療法学	中島　啓介		1 単位	30
	歯科補綴学	槙原　絵理		1 単位	30
	歯周治療学	中村　太志		1 単位	30
	小児歯科学	西田　郁子		1 単位	30
	歯科矯正学	黒石　加代子		1 単位	30
	口腔外科学	田部　士郎		1 単位	30
	歯科麻酔学（救急処置法）	左合　徹平		1 単位	30
歯科予防処置論	歯科予防処置論	喜佐田 由美・坂本 真記子	8	2 単位	60
	歯科予防処置実習Ⅰ（う蝕予防）	坂本　真記子		1 単位	45
	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）	喜佐田　由美		3 単位	135
	口腔保健管理法	坂本　真記子		2 単位	30
歯科保健指導論	訪問歯科保健指導	山田　朋恵	7	1 単位	30
	歯科保健指導論	山田　朋恵		2 単位	45
	栄養指導	恵良　真理子		1 単位	30
	歯科保健指導実習	山田　朋恵		3 単位	135
歯科診療補助論	歯科診療補助論（院内感染防止を含む）	鷲頭　成子	9	2 単位	60
	歯科診療補助実習	鷲頭　成子		4 単位	180
	歯科放射線学	小田　昌史		1 単位	30
	臨床検査法	引地　尚子		1 単位	30
	保険請求事務	新庄　栄二		1 単位	15
臨床・臨地実習	臨地・臨床実習		20	20 単位	900
合　　計				55 単位	2025

大学等の設置者の役員名簿

学校法人 美萩野学園　役 員 名 簿

役 職 名	氏　　名	備　　考
理 事 長	権　堂　竹　虎	
副理事長	権　堂　憲　幸	
常任理事	深　江　政　美	
常任理事	藤　田　正　三	
理　　事	池　田　美　佐　子	
理　　事	馬場園　茂　生	学外者
理　　事	髙　須　憲　治	
理　　事	三　輪　昭　廣	
理　　事	脇　山　道　子	学外者
監　　事	浜　崎　力	学外者
監　　事	安　倍　英　史	学外者

学科目	歯科衛生士概論	担当者	喜佐田　由美
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	2単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科衛生学総論(医歯薬出版)

講義概要

　歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割を考える。その業務における義務や責任について理解し、医療に携わる者としての心構えを養う。

成績評価の方法

レポート提出や筆記試験の総合評価とする。筆記試験は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			歯科衛生学とは
2			歯科衛生活動のための理論
3			歯科衛生過程
4			歯科衛生士法と歯科衛生業務1
5			歯科衛生士法と歯科衛生業務2
6			歯科衛生士法と歯科衛生業務3
7			歯科衛生と医療理論1
8			歯科衛生と医療理論2
9			歯科衛生士と活動と組織1
10			歯科衛生士と活動と組織2
11			歯科衛生士と活動と組織3
12			歯科衛生士と活動と組織4
13			自分の目指す歯科衛生士像について
14			歯科衛生士と活動と組織
15			まとめ・定期試験

学習目標
・歯科衛生士法を理解する。
・医療倫理について考える。
・歯科衛生士の業務を理解する。
・インフォームドコセントについて理解する。
・歯科医療の特異性を学ぶ。
・医療に携わる者としての心構えを考える。
・自分の目指す歯科衛生士像を考える。

学科目	歯科臨床概論	担当者	永松　浩
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	歯科衛生士のための 歯科臨床概論(医歯薬出版)

講義概要

　歯科診療概論は歯科医療について理解するための入門となり、歯科医師や診療所についての体系的な知識を深めるための学問である。このために、歯科衛生士学生に歯科医学や臨床についてわかりやすく解説する。また、歯科臨床のシステムや診療の流れを理解させ、歯科衛生士の役割を早い段階で自覚するように説明する。

成績評価の方法

筆記試験の点数が60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯科医療概論1	・歯科診療の対象と特徴、医の倫理、歯科患者の特性とその対応について説明できる。
2			歯科医療概論2	・歯科診療の診療分野、設備内容等について説明できる。
3			歯科医療概論3	・歯科診療従事者の種類と役割、歯科診療の流れ、メインテナンスについて説明できる。
4			歯科疾患の概要	・歯科疾患の概要についてライフステージと関連つけて説明できる。
5			歯科治療の概論	・共通することの多い診査、検査、前処置それぞれの内容と歯科衛生士業務の役割を説明できる。
6			歯科保存治療の概要1	・保存修復学の概要について説明できる。
7			歯科保存治療の概要2	・歯内療法学の概要について説明できる。
8			歯周治療の概要	・歯周疾患について、歯周治療のながれ、歯科衛生士の役割について説明できる。
9			歯科補綴治療の概要	・歯科補綴治療とは、クラウン・ブリッジ治療のながれ、有床義歯治療のながれについて説明できる。
10			小児歯科治療の概要	・小児の特徴と小児および保護者への対応法、小児歯科診療の特徴について説明できる。
11			矯正歯科治療の概要	・不正咬合の種類、診断および治療方針の決定、矯正歯科治療における経過について説明できる。
12			口腔外科治療の概要	・口腔領域の各種疾患、口腔外科における診査、治療、歯科衛生士業務・患者対応について説明できる。
13			歯科治療の概要	・障害者や高齢者の特性とその対応法、治療の特徴、歯科衛生士業務の役割について説明できる。
14			歯科医療の変遷	・歯科医療の変遷とメディアで目にすることの新しい治療法について説明できる。
15			まとめ・定期試験	

学科目	保存修復学	担当者	吉居　慎二
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)

講義概要

歯は体の外部環境に晒される部位に形成される唯一の硬組織であり、自己修復能の極めて低い組織である。そのため、歯の組織疾患は他の組織にはない特殊性が存在する。特に齲蝕は発生頻度の高い疾患であり、微生物感染症をはじめとする他因子に起因する。
本科目では、齲蝕をはじめとする硬組織疾患とその修復法について、口腔衛生指導、予防処置および診療補助等、歯科衛生士業務遂行に必要な知識を修得させる。

成績評価の方法

筆記試験の点数が60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			保存修復学概論	・保存修復の意義と目的、種類/齲蝕と、他の歯の硬組織疾患/保存修復処置の手順/診査法について理解する。
2			器具・器材および診査方法	・保存修復処置に用いられる器具、器材/修復前処置と補助的器材/歯髄保護処置について理解する。
3			診査方法及び歯髄保護	
4			窩洞と修復法1(概論)	・窩洞概論・分類法/修復法概論について理解する。
5			修復法2(CR修復)	・成形修復1・成形修復の概要とコンポジットレジン修復について理解する。
6			実習1　CR修復	・レジン窩洞ブラックV級の外形線描記/窩洞形成/歯髄保護/化学重合レジン充填について理解する。
7				
8			修復法3(GIC修復)	・成形修復2・グラスアイオノマー修復について理解する。
9			修復法4(インレー修復1)	・インレー修復１・インレー修復の概要とメタルインレー修復について理解する。
10			修復法5(インレー修復2)	・インレー修復2・ポーセレンインレーおよびコンポジットレジンインレー修復/合着用セメントについて理解する。
11			実習2　GIC修復	・レジン窩洞ブラック皿級、グラスアイオノマーセメント根面齲蝕の外形線描記/窩洞形成/光重合レジン充填グラスアイオノマーセメント充填について理解する。
12				
13			修復法6 (ラミネートベニア修復)	・ラミネートベニア修復/保存修復学の現在と未来について理解する。
14			修復法6(審美治療)	
15			まとめ・定期試験	

学科目	歯内療法学	担当者	中島　啓介
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法(医歯薬出版)

講義概要

　歯髄炎・根尖性歯周炎は口腔内に多発する疾患である。これらの疾患ではう蝕あるいは歯周疾患から影響を受けることが少なくないため、様々な症状を呈する。講義では、講師からの一方向の説明でなく学生とのコミュニケーションを重視して臨床的な意義を説明する。
歯内療法学では、単一の原因により発症する歯髄炎・根尖性歯周炎に加えて、歯周疾患との混合感染等の複合的な原因により発症する歯髄炎・根尖性歯周炎についても説明し、疾患ごとに病因、診断、治療法を学習させる。臨床的な内容では診療補助を中心として説明するが、治療の最終ゴールを提示し歯髄炎・根尖性歯周炎ならびに歯周病変との関係についても学習させる。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯内療法の概要	・歯内療法の目的を説明できる。
2			歯髄保存療法、歯髄の除去療法	・歯髄炎の進行程度による治療法の違いを説明できる。
3			根管治療	・根管治療の目的と手技を説明できる。
4			根管充填	・根管充填の目的と手技を説明できる。
5			外科的歯内療法	・外科的歯内療法の種類と手技を説明できる。
6			歯の外傷	・歯の外傷の原因と治療法を説明できる。
7			歯内療法における歯科衛生士の役割	・歯内療法における歯科衛生士の役割を説明できる。
8			歯内療法における診療補助	・歯内療法の各治療における流れと使用器材を説明できる。
9			実習1　ラバーダム防湿、天蓋除去	・ラバーダム防湿の準備ができる。 ・ラバーダム防湿を実施できる。 ・天蓋除去の準備ができる。 ・ラバーダム防湿・天蓋除去の診療補助ができる。
10				
11			実習2　根管拡大・形成	・根管拡大・形成の準備ができる。 ・根管拡大・形成の診療補助ができる。
12				
13			実習3　根管充填	・根管充填の準備ができる。 ・根管充填の診療補助ができる。
14				
15			まとめ・定期試験	・まとめ

学科目	歯科補綴学	担当者	槙原　絵理
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常１　歯科補綴 (医歯薬出版)

講義概要

咀嚼機能の回復、発音機能の回復、審美性の回復、残存組織の保護という歯科補綴治療の意義と、クラウン、ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯それぞれの特徴についての理解を深めるとともに、歯科衛生士としての基本的な手技を教授し、国家試験合格のためのベーシックな知識を習得させる。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯科補綴治療とはⅠ	・歯科補綴治療の意義と目的 ・補綴装置の種類と適応 ・滅菌・消毒 ・診療補助 ・歯科技工との関連 ・患者指導
2			歯科補綴治療とはⅡ	
3			歯科補綴治療の基礎知識Ⅰ	・歯列の形態と位置的関係 ・顎口腔系の機能 ・咬合とその関連事項 ・歯の欠損・喪失に伴う変化・障害 ・顎関節とその異常
4			歯科補綴治療の基礎知識Ⅱ	
5			歯科補綴治療の基礎知識Ⅲ	
6			クラウンⅠ	・クラウンの分類 ・臨床ステップの概説 ・患者指導
7			クラウンⅡ	
8			ブリッジ	・構成と材料 ・臨床ステップの概説 ・装着時の注意・口腔清掃指導
9			部分床義歯Ⅰ	・部分床義歯の分類 ・構成要素、臨床ステップの概説 ・患者指導
10			部分床義歯Ⅱ	
11			部分床義歯Ⅲ	
12			全部床義歯Ⅰ	・全部床義歯の分類 ・構成要素 ・臨床ステップの概説
13			全部床義歯Ⅱ	
14			補綴治療に用いられる器材とその管理/特別な名称をもつ義歯/補綴装置の補修・除去/下顎運動および咬合の機能検査	
15			まとめ・定期試験	

学科目	歯周治療学	担当者	中村　太志
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	２年	開講時期	２年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯周病学 (医歯薬出版)

講義概要

歯周組織の解剖や機能を理解し、歯周疾患の原因とその成立から分類、全身疾患との関連を知る。
歯周治療に必要な診査、診断、治療法を知り、さらに歯周治療における歯科衛生士の役割について詳細に学ぶ。
スライドおよび配布資料を用い、テキストの補充を行う。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			歯周治療とは 正常な歯周組織の構造と機能
2			歯周疾患の分類
3			歯周疾患の原因 歯周疾患と全身の状態との関わり
4			歯周治療の進め方 歯周疾患の診査
5			歯周基本治療(1)
6			歯周基本治療(2)
7			歯周基本治療(3)
8			歯周基本治療(4)
9			歯周外科治療(1)
10			歯周外科治療(2)
11			歯周外科治療(3)
12			歯周外科治療(4)
13			口腔機能回復療法 インプラント周囲組織について
14			歯周治療のメインテナンス および歯周安定期治療
15			まとめ・定期試験

学習目標
①歯周疾患と歯周療法の概要を説明できる。 ②歯周疾患の分類とその症状について説明できる。 ③歯周疾患の原因・発症を説明できる。 ④歯周診査法を理解し、歯周治療に使用する器具名、薬品名の使用法を理解し、説明できる。 ⑤スケーリング・ルートプレーニングについて理解し、スケーラーの構造、特性、操作法について説明できる。 ⑥歯周外科について理解し、そのアシスタント法について理解し、説明できる。 ⑦歯周治療のメインテナンスの重要性を理解し、歯科衛生士としての役割を理解し、説明できる。

学科目	小児歯科学	担当者	西田　郁子
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 小児歯科 (医歯薬出版)

講義概要

小児歯科では、出生時から成長、発育過程にある小児が対象である。そのため、全身的な発達を考慮に入れた小児期の特徴について、学習する。さらに、成長発育過程にある小児への対応法、非協力時への対応法について学習する。診療に関しては、う蝕治療だけでなく、歯周疾患、外科的処置、軟組織疾患、う蝕予防および保健指導など口腔内管理、咬合誘導について、学習する。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			小児歯科の意義
2			発育概論
3			小児の生理的特徴
4			頭部・顔面の成長発育
5			歯列および咬合の発育
6			乳歯および幼若永久歯の特徴
7			小児患者の対応法 （年齢別・一般的対応法）
8			小児患者の対応法 （非協力児への対応法）
9			小児期における歯冠修復
10			小児期における歯内療法
11			小児期における外科的処置
12			咬合誘導
13			小児期のう蝕の特徴
14			小児期のう蝕予防
15			まとめ・定期試験

学習目標
・小児の成長発育過程およびその特徴を理解する。その後、歯科衛生士として小児歯科治療に必要な知識について、成人における歯科治療と対比しながら学習する。概要は左記のようである。

学科目	歯科矯正学	担当者	黒石　加代子
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正(医歯薬出版)

講義概要

歯科矯正学は、不正咬合や咀嚼障害の原因・予防および治療法を研究する歯学の一分野である。従って、その基礎と臨床に関して基本的な事項を修得する。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯科矯正学概論	・歯科矯正学とは。 ・歯科矯正治療の目的と必要性
2			成長・発育	・顎、歯、歯列の成長発育の特徴
3			正常咬合	・正常咬合の成立条件 ・正常咬合の種類
4			不正咬合	・不正咬合の種類。分類。原因
5			矯正力と歯の移動	・歯の移動様式と組織反応
6			矯正治療に必要な資料	・資料の種類と作り方。使用方法
7			矯正治療に必要な器具	・器具・器材の名称と使用方法
8			矯正装置	・装置の名称と使用方法
9			顎態模型製作実習(1)	・印象採得・石膏の流し方
10			顎態模型製作実習(1)	
11			顎態模型製作実習(2)	・咬合採得・顔弓計測
12			顎態模型製作実習(2)	
13			顎態模型製作実習(3)	・模型の仕上げ方
14			顎態模型製作実習(3)	
15			まとめ・定期試験	

学科目	口腔外科学	担当者	田部　士郎
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科学・歯科麻酔学(医歯薬出版)

講義概要

口腔外科臨床で取り扱う内容について、概説し各疾患についての特徴及び、治療法について学習する。また、口腔外科領域の手術についての術式、器具及び、麻酔法についても講義を行い、口腔外科手術アシスタントに際しての知識、技能についても習得することを目的とする。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			口腔外科学総論、診察・診断の実際
2			口腔領域の先天異常・変形
3			口腔領域の損傷、顎関節疾患
4			口腔粘膜疾患、血液疾患と出血性素因
5			顎口腔領域の炎症、顎口腔領域の嚢胞
6			顎口腔領域の腫瘍
7			唾液腺疾患、口腔領域の神経性疾患
8			小手術概論(実習前講義)、麻酔
9			1.手指消毒、手術用グローブの着脱法 2.感染予防対策 3.脈拍測定及び血圧測定 4.器具の名称と取り扱い方 5.埋伏抜歯のトレーセットと器具の受渡し 以上の項目を3ローテーションで実習し、技能の習得を行う。
10			
11			
12			
13			
14			
15			まとめ・定期試験

学習目標
・口腔外科の概要 口腔外科の概要と内科系疾患とのかかわりについて理解を深める。 ・口腔外科治療の主な疾患 口腔外科治療における歯科衛生士の役割について理解を深める。 ・口腔外科領域の麻酔 緊急蘇生法を含めた歯科麻酔について理解を深める。

学科目	歯科麻酔学	担当者	左合　徹平
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科学・歯科麻酔学(医歯薬出版)

講義概要

近年、歯科治療技術の進歩により口腔インプラント、歯周外科などの外科処置が盛んに行われている。このような高侵襲の処置は快適・安全に行わなければならない。加えて、高齢社会に伴い何らかの全身疾患を持つ有病者が増加する傾向にあるが、歯科治療によって全身疾患が増悪することもある。以上のことより、歯科においても全身管理が必要になる。ここでは、全身評価のためのバイタルサインのチェック法、歯科治療を円滑に行うための麻酔法、歯科治療時に起こる偶発症への予防・対処法、緊急事態に対する救急蘇生法について学ぶ。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			歯科麻酔の役割、 歯科麻酔における歯科衛生士の役割
2			全身の評価法、 ストレスに対する生体の反応
3			バイタルサインの意味と見方
4			歯科における麻酔法
5			局所麻酔 (局所麻酔薬の種類と含有物、 表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔)
6			精神鎮静法 (笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法)
7			全身麻酔 (吸入麻酔、静脈麻酔、気管内挿管麻酔)
8			一次救命処置 (気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫)
9			一次救命処置 (AED、窒息の解除)
10			ACLS (静脈路確保、救急薬剤)
11			歯科治療時の偶発症 (過換気症候群、神経性ショックなど)
12			有病者歯科治療(虚血性心疾患、脳血管傷害、糖尿病、高血圧症など)
13			実習 (バイタルサイン、CPR、AED、笑気吸入鎮静法)
14			
15			まとめ・定期試験

学習目標
1. 歯科衛生士に必要な歯科麻酔の知識を習得する。 2. 全身の評価法を列挙できる。 3. ストレスに対する生体反応を説明できる。 4. バイタルサインの説明ができる。 5. 血圧・脈拍の測定ができる。 6. 歯科の麻酔法を列挙し、説明できる。 7. 局所麻酔法を説明できる。 8. 局所麻酔薬の添加物の役割と作用を説明できる。 9. 精神鎮静法の適応を説明できる。 10. 笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法の利点・欠点を説明できる。 11. 精神鎮静法に使用する薬剤を説明できる。 12. 全身麻酔法と適応について説明できる。 13. 確実なCPRを修得する。 14. 傷病者に対するAEDの使用法を修得する。 15. 窒息の解除法を修得する。 16. ACLSについて説明できる。 17. 静脈路確保に必要な物の準備ができる。 18. 救急蘇生に必要な薬剤を説明できる。 19. 歯科治療時の偶発症を説明できる。 20. 偶発症の対処・予防法を説明できる。 21. 歯科治療時に注意を要する全身疾患を説明できる。 22. 口腔顔面痛を説明できる。 23. 歯に関連痛を誘発する疾患を列挙できる。

学科目	歯科予防処置論	担当者	喜佐田　由美
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

医療技術の発展に伴い、歯科衛生士の資質そのものの向上の必要性が求められてる。
その中で必要とされる歯科予防処置や歯周病予防に関する知識を習得する必要がある。
そこで基礎知識から相互実習に必要な知識までを1年を通して学んでいく。

成績評価の方法

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			歯科予防処置の概論
2			基礎知識①
3			基礎知識②
4			付着物・沈着物
5			う蝕・歯周病
6			スケーリング
7			口腔内の情報収集
8			キュレットスケーラー及び手用スケーラー
9			シャープニング
10			プロービング
11			超音波スケーラーとエアースケーラー
12			歯面研磨
13			PMTC
14			感染予防・偶発事故・相互実習
15			まとめ・定期試験

学習目標

・歯科予防処置及び歯周病予防の基礎知識を身につける。
・歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。
・歯や口腔に関する基礎知識を身につける。
・全身及び口腔の状態を的確に観察する能力をつける。

学科目	歯科予防処置論	担当者	坂本　真記子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版) 保健生態学(医歯薬出版)

講義概要

治療を中心とする歯科医療から予防中心の歯科医療へシフトが求められている中、歯科衛生士の役割も変化しつつあります。このような状況の変化に対応するとともに、ライフステージに応じた口腔の健康増進や個々の生涯を通じた継続的な齢蝕予防、口腔管理を行えるように技術・知識を習得する。

成績評価の方法

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			歯科予防処置の基礎知識　総論
2			う蝕活動性試験1
3			う蝕活動性試験2
4			う蝕活動性試験3
5			う蝕予防処置法の基礎
6			フッ化物の基礎知識1
7			フッ化物の基礎知識2
8			フッ化物洗口法
9			フッ化物ジアンミン銀
10			小窩裂溝裂塞法(ﾌｨｯｼｬｰｼｰﾗﾝﾄ)1
11			小窩裂溝裂塞法(ﾌｨｯｼｬｰｼｰﾗﾝﾄ)2
12			フッ化物歯面塗布法1
13			フッ化物歯面塗布法2
14			集団応用の基礎知識
15			まとめ・定期試験

学習目標
・う蝕予防処置実習を行う際の基礎知識を修得する。 ・う蝕の病因論を正しく理解し、予防や理論・メカニズムなどを明確に把握することができる。

学科目	歯科予防処置実習Ⅰ（う蝕予防）	担当者	坂本　真記子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

う蝕予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、臨床に必要な実践能力を身につける。

成績評価の方法

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			う蝕活動性試験 カリオスタット
2			う蝕活動性試験 RDテスト
3			う蝕活動性試験 グルコースクリアランステスト
4			う蝕活動性試験 CAT21パフ
5			う蝕予防の基礎実習 フッ化物の確認（味・口腔内感覚…）
6			う蝕予防の基礎実習 フッ素の予防効果 （たまごを使用しての実習）
7			フッ化物洗口法 フッ化物洗口法の応用
8			フッ化ジアンミン銀の塗布
9			小窩裂溝填塞法基礎実習 化学重合

学習目標
・口腔内の状況を記録・説明することができる。 ・プロフェッショナルケアの技術を熟達する。 ・う蝕予防処置に用いる器具・器材を把握する。 ・術前・術後の説明、指導ができる。 ・処置内容、注意事項などを事前・事後に説明することができる。

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
10			小窩裂溝填塞法（マネキン実習）	
11			小窩裂溝填塞法（マネキン実習）	
12			フッ化物局所応用(基礎実習) イオン導入法トレーの適量	
13			フッ化物局所応用（相互実習） イオン導入法	
14			フッ化物局所応用（相互実習） イオン導入法	
15			フッ化物局所応用（相互実習） 歯ブラシ法	
16			フッ化物局所応用（相互実習） 歯ブラシ法	
17			フッ化物局所応用（相互実習） デントガード	
18			フッ化物局所応用（相互実習） デントガード	
19			フッ化物局所応用（相互実習） 綿球塗布法（溶液）	
20			フッ化物局所応用（相互実習） 綿球塗布法（溶液）	
21			フッ化物局所応用（相互実習） 綿球塗布法（ゼリー）	
22			フッ化物局所応用（相互実習） 綿球塗布法（ゼリー）	
23			まとめ・定期試験	

学科目	歯科予防処置実習Ⅱ	担当者	喜佐田　由美
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

歯科予防処置実習の基礎・基本となる、手技的スキルを1年間かけて実施する。
鎌型スケーラー及びキュレットスケーラーの模型実習を行い、その技術習得を図る。
手技の対象が常に生きている人であることを踏まえ、しっかりした手技に熟練していかなければならない。

成績評価の方法

レポート・実技試験・実習態度等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			鎌型スケーラー基礎実習1
2			鎌型スケーラー基礎実習2
3			鎌型スケーラー前歯部1
4			キュレットスケーラー基礎実習
5			キュレットスケーラー模型実習前歯部1
6			鎌型スケーラー模型実習前歯部2
7			キュレットスケーラー模型実習前歯部2
8			鎌型スケーラー模型実習前歯部3
9			キュレットスケーラー模型実習前歯部3
10			シャープニングと全体の復習
11			鎌型スケーラー模型実習臼歯部1
12			キュレットスケーラー模型実習臼歯部1
13			鎌型スケーラー模型実習臼歯部2
14			キュレットスケーラー模型実習臼歯部2
15			鎌型スケーラー模型実習臼歯部3
15			キュレットスケーラー模型実習臼歯部3
17			シャープニングと全体の復習
18			鎌型スケーラー模型実習臼歯部4
19			キュレットスケーラー模型実習臼歯部4
20			鎌型スケーラー模型実習臼歯部5
21			鎌型スケーラー模型実習
22			キュレットスケーラー模型実習臼歯部5
23			キュレットスケーラー模型実習
24			鎌型スケーラー実技試験
25			キュレットスケーラー実技試験

学習目標

・予防的歯石除去法を的確に行う技術を身に付ける。
・スケーラーの使用方法を熟知する。
・模型実習にて基本を学び、相互実習に応用できる技術を身に付ける。
・ユニットでの模型実習を取り入れ、より実践に近い形態での訓練を行う。また、ユニットでの訓練を繰り返すことで、ユニット操作やライティングの上達を目指す。

学科目	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）	担当者	喜佐田　由美
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

歯科予防処置や治療についての知識だけでなく、正確な診査・的確な診断能力を養い、口腔衛生指導・歯石除去・齲蝕予防処置・メインテナンスを確実に行うことが出来る能力を身に付ける。

成績評価の方法

実習態度・実習レポート・筆記試験等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			各種歯口清掃法の基本習得実習
2			フォーンズ法 チャート記入練習・歯石観察
3			スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察
4			バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察
5			バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察
6			ローリング法・チャーターズ法 チャート記入練習・粛石観察
7			相互実習のための訓練1
8			相互実習のための訓練2
9			歯石探知　　模型・相互実習

学習目標
・処置を行うにあたり、全身状態を把握し、かつ必要な口腔内の状況を正確に診査、分析する能力を習得する。 ・適切な器具を選択でき、正しい操作ができること。 ・実施にあたっては、対象者の口腔内ばかりでなく、全身的・心理的にも配慮が出来る。

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
10			歯石探知　模型・相互実習	
11			ミラーの訓練　模型・相互実習	
12			ミラーの訓練　模型・相互実習	
13			鎌型スケーラー　模型実習	
14			キュレットスケーラー　模型実習	
15			手用スケーラー　相互実習	
16			手用スケーラー　相互実習	
17			プロービング　模型・相互実習	
18			プロービング　模型・相互実習	
19			超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
20			超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
21			超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
22			超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
23			まとめ・定期試験	

学科目	歯科予防処置実習Ⅱ	担当者	喜佐田　由美
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	3年	開講時期	3年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

実習の総仕上げとして、患者実習・臨床実習に備える。手技や知識の充実を図り、より一層の実技の向上を目指す。その為に繰り返し訓練し、力をつける。

成績評価の方法

実習態度・レポート・筆記試験等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	
1			プロービング　下顎	相互実習
2			プロービング　下顎	相互実習
3			エアーフロー	模型実習
4			エアーフロー	相互実習
5			PMTC	模型実習
6			PMTC	相互実習
7			超音波スケーラーと研磨実習	相互実習
8			超音波スケーラーと研磨実習	相互実習
9			プロービング　全顎	相互実習
10			プロービング　全顎	相互実習
11			超音波スケーラー仕上げ1	相互実習
12			超音波スケーラー仕上げ1	相互実習
13			鎌型スケーラー	模型実習
14			キュレットスケーラー	模型実習
15			手用スケーラー	相互実習
15			手用スケーラー	相互実習
17			超音波スケーラー仕上げ2	相互実習
18			超音波スケーラー仕上げ2	相互実習
19			プロービング・超音波S・歯面研磨	相互実習
20			プロービング・超音波S・歯面研磨	相互実習
21			プロービング・超音波S・歯面研磨	相互実習
22			プロービング・超音波S・歯面研磨	相互実習
23			まとめ・定期試験	

学習目標
・歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。 ・3年間の総仕上げと考え、各操作の手順や器具の準備がスムーズに行えるように練習を繰り返す。 ・また、1回の操作に対する、時間短縮・操作の丁寧さを目標に技術を習得し、即戦力となれるよう努力する。

学科目	口腔保健管理法	担当者	坂本　真記子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期
単位数	2単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 口腔保健管理(医歯薬出版)

講義概要

生涯を通じた口腔保健管理を目標にし、口腔観察・口腔清掃から、業務記録に至るまでをライフステージに合わせた指導・管理が出来るようにする。

成績評価の方法

筆記試験・実習レポート等で総合的に評価する。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞1
2			口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞2
3			口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞3
4			生涯を通じた口腔保健管理1
5			生涯を通じた口腔保健管理2
6			口腔観察と口腔清掃1
7			口腔観察と口腔清掃2
8			口腔観察と口腔清掃3
9			業務記録1
10			業務記録2
11			業務記録3
12			口腔保健管理の演習1
13			口腔保健管理の演習2
14			口腔保健管理の演習3
15			まとめ・定期試験

学習目標
・患者様からの情報を正確に捉え、正しく情報を読み取る。その為に、何をどう記録し、何を読みとっていくかを学ぶ。 ・記録を作成するにあたり、必要な知識・技術を習得し、また演習を実施することで実践できる能力を習熟する。

学科目	訪問歯科保健指導	担当者	山田　朋恵
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	在宅訪問における口腔ケアの実際 (医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本　高齢者歯科 (医歯薬出版)

講義概要

・口腔環境を整備し、的確に摂食・嚥下が出来るようになることで、要介護者のQOLを高めることを学ぶ。
・訪問歯科診療や訪問口腔ケアを実践する能力を習得するために本人及びその家族への対応法や援助・技術の方法を学ぶ。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			総論 口腔ケアに際しての基本的心がまえ
2			高齢者の健康と疾病 老化による機能衰退・高齢者と薬剤
3			摂食・嚥下機能の成り立ち 摂食・嚥下のメカニズム(解剖・生理)
4			高齢者の口腔 摂食・嚥下障害・口腔乾燥症他
5			訪問口腔ケアの実際工 実践の流れ・接し方
6			訪問口腔ケアの実際Ⅱ 在宅訪問に必要な道具・体位
7			訪問口腔ケァの実際Ⅲ 口腔清掃
8			訪問口腔ケアの実際IV 摂食・嚥下指導・リハビリテーション
9			介護技術の習得 日常生活の介助
10			実習：専門的口腔ケア 道具の工夫・義歯の取り扱い
11			実習：専門的口腔ケア 道具の工夫・義歯の取り扱い
12			実習：専門的口腔ケア 巻綿子・スポンジブラシ
13			実習:専門的口腔ケア 巻綿子・スポンジブラシ
14			実習：摂食・嚥下介助 食事の姿勢・調理の工夫・食器の選び方
15			まとめ・定期試験

学習目標

・高齢者の生態諸機能や病態と、歯科口腔疾患との関係を確認する。
・摂食・嚥下のメカニズムを把握し、摂食・嚥下障害による全身への影響を学ぶ。
・ADLに応じた口腔ケアを実施できる。
・訪問介護の現場における他職種との関わりを学ぶ。
・訪問介護における歯科衛生士の役割を把握する。
・訪問口腔ケアの実際を学び、演習にて実践することにより、術式を把握する。
・在宅療養者やその家族に口腔ケアの必要性を説明できる。

学科目	歯科保健指導論	担当者	山田　朋恵
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	2単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

　歯科衛生士にとって重要な分野を占める歯科保健指導の基礎を固め、並行して学習する実習を円滑に行えるようにする為のものである。
　全身の健康と口腔、対象を取り巻く環境とを関連付けた好ましい歯科保健行動がとれるように専門的な立場から支援できる基本的な知識を学ぶ。

成績評価の方法

筆記試験の点数が６０点以上のものを合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			概論Ⅰ 歯科保健指導の意義・定義・健康の概念
2			概論Ⅱ 歯科保健指導・歯科衛生教育の基礎
3			口腔内の汚れを調べる方法 口腔保健正常像の理解・歯の汚れの観察
4			口腔内の汚れを調べる方法 歯垢を調べる方法・染色剤について
5			口腔内の汚れを調べる方法 歯垢を調べる方法・染色剤について
6			口腔内の汚れを調べる方法 歯垢を調べる方法(PCR)
7			口腔内の汚れを調べる方法 歯垢を調べる方法(OHI)
8			歯ブラシについて1 歯ブラシの特徴
9			歯ブラシについて1 歯ブラシの種類

学習目標
・歯科保健指導および歯科衛生教育の基礎が説明できる。 ・歯科保健指導実習を行う際の基礎知識を修得する。 ・対象別の口腔状況を把握し、適切な清掃用具を選択でき、心身の状態や口腔状況に応じた口腔清掃方法を理解する。

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
10			各種歯口清掃法 毛先を使う方法・脇腹を使う方法	
11			PMA・禁煙指導・POS 歯肉の炎症・喫煙が及ぼす害	
12			補助的清掃用具の知識Ⅰ 各種補助的清掃用具の種類と特徴	
13			補助的清掃用具の知識Ⅱ 各種補助的清掃用具の種類と特徴	
14			対象別歯科保健指導:乳児・幼児 乳児の特徴・成長発達・口腔ケア・ 離乳指導	
15			対象別歯科保健指導:幼児 幼児の特徴・成長発達・口腔ケア・ 食事指導	
16			対象別歯科保健指導:学童 学童の口腔の特徴・口腔ケア	
17			対象別歯科保健指導:思春期 思春期の口腔の特徴・口腔ケア	
18			対象別歯科保健指導:成人Ⅰ 成人の口腔の特徴・口腔ケア	
19			対象別歯科保健指導:成人Ⅱ 歯周病対策	
20			対象別歯科保健指導:妊産婦 妊産婦の特徴・口腔の特徴・口腔ケア	
21			対象別歯科保健指導:高齢者・要介護者 高齢者の特徴・口腔の特徴・口腔ケア	
22			対象別歯科保健指導:高齢者・要介護者 要介護者の特徴・口腔の特徴・口腔ケア	
23			まとめ・定期試験	

学科目	栄養指導	担当者	惠良　真理子
授業担当者の実務経験	管理栄養士として市内大学勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 (医歯薬出版)

講義概要

栄養指導の目的、意義、栄養指導の進め方およびライフステージ別の指導方法について学ぶ。

成績評価の方法

筆記試験及び出席状況により、単位を認定する。筆記試験は100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			栄養指導の概念
2			栄養指導における対象者の把握法1
3			栄養指導における対象者の把握法2
4			食行動と栄養指導
5			栄養指導の進め方1
6			栄養指導の進め方2
7			栄養指導の進め方3
8			栄養指導の効果判定方法
9			栄養指導に必要なカウンセリング技術
10			歯科保健衛生における栄養指導
11			幼児期における栄養指導
12			学童期における栄養指導
13			成人における栄養指導
14			高齢者における栄養指導
15			まとめ・定期試験

学習目標
・栄養指導は対象となる個人や集団が健康の維持・増進や疾病の治療のために、自らの意志で栄養・食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるよう支援する行為である。本講義では、栄養指導の基礎を学ぶとともに、歯科衛生士として行う保健指導に必要な栄養指導の知識、技術を習得することを目的とする。

学科目	歯科保健指導実習	担当者	山田　朋恵
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版)

講義概要

ライフステージに応じた歯科保健指導の変容を支援するために必要な技術、態度を学習する。

成績評価の方法

実技試験80%・出席状況10%・実習レポート10%で評価する。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			各種染色法体験学習 染色剤についてグループ実習
2			チャート記入練習実習 PCR
3			チャート記入練習実習 OHI(DIのみ)
4			歯石の観察 OHI・PCR
5			ブラッシングの基礎知識 各種ブラッシング方法
6			歯肉の観察 PMA・OHI-S・PCR
7			チャート記入練習実習 PMA・OHI-S
8			補助的清掃用具の使用方法実習 ジェット水流・ウォーターピック
9			補助的清掃用具の使用方法実習 電動歯ブラシ(音波・超音波)

学習目標
・歯科保健指導に用いるチャートを作成できる。 ・歯科保健指導に用いる器具・器材を把握する。 ・対象別の口腔状況を把握し、適切な清掃用具を選択でき、心身の状態や口腔状況に応じた口腔清掃ができる。 ・日常の生活習慣と歯科保健との関連を述べることができる。 ・歯科疾患抑制のための保健行動を実施することができる。 ・対象把握法、対話方法について説明できる。 ・対象把握のための収集した情報を分析することができる。

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
10			補助的清掃用具の使用方法実習 デンタルフロス・歯間ブラシ他	
11			症例別指導1 矯正装置装着者、義歯装着者への ブラッシング方法	
12			症例別指導H In・CR・Br・インプラント部位への ブラッシング方法	
13			症例別指導皿 自分の口腔内に合った磨き方	
14			歯磨剤 歯磨剤の種類・成分	
15			実技テスト ブラッシングの実技テスト	
16			間食指導 おやつについて	
17			コミュニケーションテクニック1 望ましい対人関係の理解	
18			コミュニケーションテクニックH コミュニケーションのとり方	
19			コミュニケーションテクニック皿 カウンセリング技法	
20			POS・対象の把握法	
21			POS・総合実習1	
22			POS・総合実習H	
23			まとめ	

学科目	歯科保健指導実習	担当者	山田　朋恵
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	2単位	テキスト及び参考資料	歯と口の健康百科(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「障害者歯科」(医歯薬出版)

講義概要

・2年後期に実施する幼稚園実習(虫歯予防のペープサート・ブラッシング指導)の前準備を行う。
・幼稚園実習後の反省、振り返りを行う。
・2年後期で行われる障害者施設実習の前準備を行う。障害者施設実習後の反省、振り返りを行う。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			幼稚園実習準備 実習概要説明、班毎の役割分担	・幼稚園児に楽しんで、歯の大切さを知ってもらえるようグループで工夫する。 ・幼児の言葉の理解度、発達状況、行動面においての特徴を理解する。 ・幼児の口腔内の特徴を確認する。 ・幼児へのブラッシング指導ができる。(含む仕上げ磨き) ・事前準備及び、実習当日グループの中での自分の役割を把握し、全員で協力して、実習を充実したものにする。 ・ブラッッシングの重要性、カリエスになりやすいお やつと、なりにくいおやつについて、わかりやすいように幼児に伝える。 ・動機付けとしての歯磨きカレンダーを作成する。 ・保護者説明用にリーフレットを作成する。 ・事後反省会で各自の振り返りが的確にでき、次につなげることができる。 ・装置の名称と使用方法
2			幼稚園実習準備 ペープサート内容検討、台本作成開始	
3			幼稚園実習準備 台本作成、媒体作成開始	
4			幼稚園実習準備 台本作成、媒体作成	
5			幼稚園実習準備 台本作成、媒体作成	
6			幼稚園実習準備 台本作成、媒体作成	
7			幼稚園実習準備 台本作成、媒体作成	
8			幼稚園実習準備 媒体作成	
9			幼稚園実習準備 媒体作成、ペープサート練習	
10			幼稚園実習準備 ペープサート練習	
11			幼稚園実習準備 ペープサート練習	
12			幼稚園実習準備 ペープサート練習	
13			幼稚園実習準備 ペープサート練習	
14			幼稚園実習準備 ペープサート練習	
15			ペープサートリハーサル 専任教員によるチェック	
16			ペープサートリハーサル 専任教員によるチェック	

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
17			リハーサル後の手直し	・障害者施設実習の目的を把握する。 ・知的障害について理解する。 ・障害者の歯科保健行動を学ぶ。 ・障害のある方への口腔衛生指導を学ぶ。 ・実習にて知的障害・者とのコミュニケーションのとり方、口腔衛生指導法を確認する。 ・事後反省会で各自の振り返りが的確にでき、次につなげることができる。
18			ペープサートビデオ撮り	
19			ペープサートビデオ撮り	
20			ビデオチェック・リーフレット作成	
21			ビデオチェック・リーフレット作成	
22			ロールプレイⅠ 導入・染色・ペアわけ	
23			ロールプレイⅠ 導入・染色・ペアわけ	
24			ロールプレイⅡ 幼児の特徴・ブラッシング指導・仕上げ磨き	
25			ロールプレイⅡ 幼児の特徴・ブラッシング指導・仕上げ磨き	
26			幼稚園実習の説明 幼児への口腔衛生指導のポイント	
27			1回目幼稚園実習前準備 全体確認・班毎確認他	
28			1回目幼稚園実習後片付けと反省会 (個人・班)	
29			2回目幼稚園実習前準備 全体確認・班毎確認他	
30			2回目幼稚園実習後片付けと反省会 (個人・班)	
31			3回目幼稚園実習前準備 全体確認・班毎確認他	
32			3回目幼稚園実習後片付けと反省会 （個人・班別）	
33			障害者施設実習準備 実習概要の説明・班分け発表	
34			障害者施設実習準備 「ブラッシングの手引き」下書き	
35			障害者施設実習の準備 「ブラッシングの手引き」清書	
36			1回目障害者施設実習の前準備 障害者への口腔衛生指導のポイント	
37			1回目障害者施設実習の前準備 器具の準備・支援担当者確認	
38			1回目障害者施設実習の当日準備 全体の流れ・準備・後片付け確認	
39			1回目実習反省会・事後レポート作成 担当者へのメッセージ	
40			1回目実習反省会・事後レポート作成 来年度への申し送り	
41			2回目障害者施設実習の前日準備 器具の準備・支援担当者確認	
42			2回目障害者施設実習の前日準備 全体の流れ・準備・後片付け確認	
43			2回目実習反省会・事後レポート作成 担当者へのメッセージ	
44			2回目実習反省会・事後レポート作成 来年度への申し送り	
45			まとめ・定期試験	

学科目	歯科診療補助論	担当者	鷲頭　成子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本　歯科材料 最新歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)

講義概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。
歯科材料の取り扱いを中心に、他の科目との関連を掴む。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			概論	・歯科衛生士の業務範囲、法的責任について理解する。
2			感染予防対策①	・歯科医療における感染症の概念を理解する。
3			感染予防対策②	・各種滅菌法、消毒法の基礎知識を理解する。 ・衛生材料の取り扱い方
4			印象材①(概論)	・印象材の所要性質 ・アルジネート印象材の取り扱い①
5			印象材②(アルジネート)	・アルジネート印象材の取り扱い②
6			模型材(石こう)	・模型材(石膏)の所要性質 ・模型材の取り扱い①
7			印象材③(寒天)	・寒天印象材の性質と取り扱い方(寒天・アルジネート連合印象を含む)
8			印象材④	・無歯顎印象材の特性と取り扱い方
9			印象材⑤	・合成ゴム印象材の特性と取り扱い方
10			修復材	・修復材の種類(分類)とその特徴
11			歯科用レジン	・成形修復(コンポジットレジン充填)時の特性と器材器具の取り扱い及び共同動作
12			グラスアイオノマーセメント	・成形修復(グラスアイオノマーセメント)時の特性と取り扱い方及び共同動作
13			隔壁調整	・成形修復時の器材器具の取り扱い及び共同動作(隔壁調整を含む)
14			セメント概論	・歯科用セメントの概要を掴み、成分や使用用途で分類が出来るようになる。
15			まとめ・定期試験	

学科目	歯科診療補助論	担当者	鷲頭　成子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本　歯科材料 最新歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)

講義概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。
1年次の復習及び臨床実習に必要な知識の充実を図る。但し、講義順は、状況により変更することがある。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯科用セメント	・1年次の復習を兼ねて、種類や特性を確認する。
2			仮封材	・仮封用セメントを含む、仮封材の特徴を理解し、取り扱い方を学ぶ。
3			仮封法	・仮封法の種類を知り、治療のどの場面で使用されるかを理解する。
4			ユニットの取り扱い方及び患者導入	・ユニットの名称と操作方法を学び、ホームポジション及び治療ポジションの確認を行う。診療の準備から、患者導入と送り出しについて。(相互実習に備えて)
5			各材料の名称と取り扱い方①	・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その特性を確認し、分類や整理を行う。
6			各材料の名称と取り扱い方②	・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その特性を確認し、分類や整理を行う。
7			各材料の名称と取り扱い方③	・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その特性を確認し、分類や整理を行う。
8			各材料の名称と取り扱い方④	・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その特性を確認し、分類や整理を行う。
9			各材料の名称と取り扱い方⑤	・臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その特性を確認し、分類や整理を行う。
10			トレーセッティングと治療の流れ①	・九州歯科大学病院実習や臨床実習を踏まえて、各領域の主な治療とそれに必要な準備物を確認する。(診療室の管理や機械整備を含む)
11			トレーセッティングと治療の流れ②	・九州歯科大学病院実習や臨床実習を踏まえて、各領域の主な治療とそれに必要な準備物を確認する。
12			トレーセッティングと治療の流れ③	・九州歯科大学病院実習や臨床実習を踏まえて、各領域の主な治療とそれに必要な準備物を確認する。
13			トレーセッティングと治療の流れ④	・九州歯科大学病院実習や臨床実習を踏まえて、各領域の主な治療とそれに必要な準備物を確認する。
14			トレーセッティングと治療の流れ⑤	・九州歯科大学病院実習や臨床実習を踏まえて、各領域の主な治療とそれに必要な準備物を確認する。
15			まとめ・定期試験	

学科目	歯科診療補助実習	担当者	鷲頭　成子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新茜科衛生士教本　歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本　歯科材料 最新歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)

講義概要

歯科材料の特性及び取り扱いの習得を中心に、各歯科治療内容に必要な器材器具の名称・用途・取り扱い方を理解する。また、円滑な診療が行えるように共同動作の方法を学ぶ。但し、実施順は状況により変更することがある。

成績評価の方法

実技試験・提出物や課題及び筆記試験を総合して評価する。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			感染予防対策・手指消毒法	・手指の消毒法の理解(一般的手指消毒法の実際)
2			衛生材料の作製	・診療用綿花の使用用途に合わせた作成方法の習得
3			アルジネート印象材①	・アルジネート印象材の取り扱い (計量・練和・トレーへの盛り付け)
4			アルジネート印象材②	・相互実習・アルジネート印象材での局部印象採得
5			模型材(石こう)	・標準混水量の把握
6			アルジネート印象材③	・相互実習・アルジネート印象材での全顎印象採得(下顎)
7			アルジネート印象材④	・相互実習・アルジネート印象材での全顎印象採得(上顎)
8			寒天印象材	・寒天・アルジネート印象材の連合印象

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
9			無歯顎印象材	・モデリングコンパウンド・酸化亜鉛ユージノール印象材の連合印象(模型実習)
10			合成ゴム印象材	・合成ゴム印象材のタイプ別取り扱い方(模型実習)
11			歯科用レジン①(演習)	・成形修復材1コンポジットレジン充填(共同動作を含む) ・即時重合レジンとの比較
12			歯科用レジン②	・成形修復材:コンポジットレジン充填(共同動作を含む)
13			グラスアイオマーセメント	・成形修復材グラスアイオマーセメント(共同動作を含む)
14			その他の修復材(演習)	・各種、修復材の特性と取り扱い方及び使用器具の名称と使用用途
15			隔壁(演習)	・ブラックの窩洞と使用隔壁の分類
16			隔壁	・トッフルマイヤー型マトリックスリテーナーの取り扱い方
17			セメントの一般的取り扱い方(演習)	・歯科用セメントに共通な取り扱い方を知り、行えるようになる。(スパチュリングの訓練)
18			合着用セメントの一般的取り扱い方(演習)	・合着用の歯科用セメントに共通な取り扱い方を知り、行えるようになる。
19			燐酸亜鉛セメント(計量法)	・JIS法及びADA法の分割と時間配分を知り、実際に行うことによって、違いを考える。
20			燐酸亜鉛セメント(目測法)	・目測法を行い、標準稠度を確認する。
21			その他合着用セメント(演習)	・接着性レジンセメント・グラスアイオノマーセメント・カルボキシレートセメントの特性と取り扱い方を知る。
22			その他合着用セメント	・上記セメントの取り扱い方の理解 (スパチュリングの訓練)
23			まとめ・定期試験	

学科目	歯科診療補助実習	担当者	鷲頭　成子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	2単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本　歯科材料 最新歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)

講義概要

九州歯科大学附属病院実習・臨床実習を目標においた、より実践的な実習内容である。口腔観察を主眼に、直接対面行為としての診療補助力を養うことを目的としている。知識の充実と合わせて、国家試験対策の一貫と考える。1年次と同様の材料を再度取り扱い、その技術の習熟度を高める。但し、実習順は状況により変更することがある。

成績評価の方法

実技試験・提出物や課題及び筆記試験を総合して評価する。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			接着性レジンセメント(演習)	・接着性レジンセメントの特性と取り扱い方(前処理)を学ぶ。
2			仮封用セメント	・銅セメント・酸化亜鉛ユージノールセメントの取り扱い方を行う。
3			ストッピング充填①	・ストッピングの取り扱い方を行う。
4			ストッピング充填②	・ファントモと顎模型にて、ストッピング充填の操作及びポジショニングを確認する。
5			材料の取り扱い方(演習)	・セメントを中心に、歯科材料の筆記試験を行う。
6			ユニットの取り扱い方(演習)	・ユニットの名称と操作方法を学び、ホームポジション及び治療ポジションの確認を行う。
7			患者導入(演習)	・患者導入から送り出しまでの一連の動きや注意事項をケースに合わせて考える。
8			バキュームテクニック(基本操作)	・バキュームシリンジとスリーウェイシリンジの取り扱い方及び臼後三角への挿入を行う。
9			口腔内洗浄①	・バキュームの日後三角への挿入とスリーウェイシリンジを使って、口腔内洗浄を行う。(相互実習)
10			口腔内洗浄②	・バキュームの臼後三角への挿入とスリーウェイシリンジを使って、口腔内洗浄を行う。(相互実習)
11			口腔内写真(演習)	・業務記録の一環としての口腔内写真の意味を考える。カメラ及び口唇鉤の取り扱い方を学ぶ。
12			口腔内写真①	・口腔内写真の撮影を行う。 ・口唇鉤を挿入し、撮影のアシスタントを行う。
13			口腔内写真②	・口腔内写真の撮影後、プリントしたものにて問題点を検討する。
14			材料の取り扱い方(復習)	・各材料の取り扱い方の復習を行う。 (水平位でのアルジネート印象採得)
15			材料の取り扱い方(復習)	・各材料の取り扱い方の復習を行う。
16			材料の取り扱い方(復習)	・各材料の取り扱い方の復習を行う。

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
17			材料の取り扱い方(復習)	・各材料の取り扱い方の復習を行う。
18			ラバーダム防湿①	・ラバーダム防湿の1歯穿孔を演習形式で行う。
19			ラバーダム防湿②	・ラバーダム防湿の1歯穿孔を演習形式で行う。
20			ラバーダム防湿③	・ラバーダム防湿の多数歯穿孔を演習形式で行う。
21			ラバーダム防湿④	・ラバーダム防湿の多数歯穿孔を演習形式で行う。
22			ラバーダム防湿⑤	・ラバーダム防湿の1歯穿孔の相互実習を行う。
23			ラバーダム防湿⑥	・ラバーダム防湿の1歯穿孔の相互実習を行う。
24			バキュームテクニック①	・部位別操作法(術者のポジションとバキュームチップの挿入位置の確認)
25			バキュームテクニック②	・部位別操作法(術者のポジションとバキュームチップの挿入位置の確認)
26			バキュームテクニツク③	・部位別操作法(術者のポジションとバキュームチップの挿入位置の確認)
27			バキュームテクニック④	・部位別操作法(術者のポジションとバキュームチップの挿入位置の確認)
28			TeCの作製(前歯)	・レジン冠によるTeCの作製とマージンの調整練習
29			TeCの作製(前歯)	・レジン冠によるTeCの作製とマージンの調整練習
30			TeCの作製(臼歯)	・筆積み法によるTeCの作製とマージンの調整及び研磨
31			TeCの作製(臼歯)	・筆積み法によるTeCの作製とマージンの調整及び研磨
32			材料の取り扱い方(復習)	・総合実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。(アルジネート印象材)
33			材料の取り扱い方(復習)	・総合実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。(アルジネート印象材)
34			材料の取り扱い方(復習)	・総合実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。(歯科用セメント)
35			総合実習①	・アルジネート印象材の印象採得及びその実技指導を1年生に対して行う。
36			総合実習②	・アルジネート印象材の印象採得及びその実技指導を1年生に対して行う。
37			総合実習③	・歯科用セメントの練和と、その実技指導を1年生に対して行う。
38			総合実習④	・歯科用セメントの練和と、その実技指導を1年生に対して行う。
39			材料の取り扱い方(復習)	・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。
40			材料の取り扱い方(復習)	・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。
41			材料の取り扱い方(復習)	・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う。
42			バキュームテクニック(復習)	・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
43			バキュームテクニック(復習)	・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
44			バキュームテクニック(復習)	・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
45			まとめ・定期試験	

学科目	歯科診療補助実習	担当者	鷲頭　成子
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	3年	開講時期	3年前期・後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本　歯科診療補助論 最新歯科衛生士教本　歯科材料 最新歯科衛生士教本　歯科機器(医歯薬出版)

講義概要

臨床実習の最終目標である口腔内観察力とコミュニケーション力の向上を目指し、実践的な実習内容で、診療補助能力の養成を行う。
また、エビデンスに基づく思考及び知識の充実と合わせて、国家試験対策の一貫と考える。材料の取り扱いは、1年次より積み上げてきた技術が、最終段階に到達することを、目標に訓練を行う。但し、実習順は状況により変更することがある。

成績評価の方法

実習態度・課題提出状況及び定期試験に基づき総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			総合実習(印象採得・模型作製)	・合同実習の準備の為に、各種検査や資料の収集を行う。 (印象採得及びスタディモデルの作成等)
2			総合実習(印象採得・模型作製)	
3			臨床実習対応(TeC)前歯レジン冠	・レジン冠によるTeCの作成とマージンの調整練習
4			臨床実習対応(TeC)前歯レジン冠	
5			臨床実習対応(TeC)左下6筆積み	・筆積み法によるTeCの作成等マージンの調整及び研磨
6			臨床実習対応(TeC)左下6筆積み	
7			臨床実習対応(TeC)仕上げ	・一括練和法によるTeCの作成等マージンの調整及び研磨
8			臨床実習対応(TeC)仕上げ	

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
9			臨床実習対応(ST)	・さまざまな仮封材の特性を知り使い分けを学ぶ。取り扱いを復習し、短時間で行えるようにする。 ・部位別操作法(術者のポジションとバキュームチップの挿入位置の確認)
10			臨床実習対応(ST)	
11			臨床実習対応(バキューム部位別)	・臨床実習をより充実させる為に、技術の向上を図る。
12			臨床実習対応(バキューム部位別)	
13			臨床実習対応(バキューム部位別)	
14			臨床実習対応(バキューム部位別)	
15			臨床実習対応(セメント)	・臨床実習をより充実させる為に、技術の向上を図る。
16			臨床実習対応(セメント)	
17			臨床実習対応(セメント)	
18			臨床実習対応(印象採得)	・寒天、アルジネートの連合印象でポストの印象採得を行う。
19			臨床実習対応(印象採得)	
20			臨床実習対応(印象採得)	
21			臨床実習対応(印象採得)寒天ポストimp	・臨床実習をより充実させる為に、技術の向上を図る。
22			臨床実習対応(綿栓)	
23			臨床実習対応(綿栓)	
			定期試験	

学科目	歯科放射線学	担当者	小田　昌史
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 歯科放射線学(医歯薬出版)

講義概要

歯科衛生士は生涯を通じて放射線従事者として働く職業である。同時に、患者に最も近接した立場で仕事を行う性格も有している。そのため、患者からエックス線に対する質問を受ける機会も多い。こういった、質問に対し正確な知識をもって適切に解答できることは患者からの信頼に繋がる。そのために、歯科放射線学を通じてエックス線の生物学的作用を理解し、その安全性と危険性について正しく認識する必要がある。同時に、医学に対するエックス線の有用性を正しく理解することも大切である。そのために、エックス線を利用して、生体の内部構造を非侵襲的に画像化する過程を理解する。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			歯科放射線を学ぶ意義・ 放射線の基礎的知識	・放射線の有用性を把握する。放射線の定義、性質を理解する。
2			歯科用エックス線装置	・歯科用エックス線装置の構造及びエックス線発生装置の構造を理解する。
3			撮影用器材	・エックス線撮影を行う際に使用する器具及びその役割について理解する。
4			口内法撮影の補助(Ⅰ)	・口内法撮影とはどのようなものかを理解する。
5			口内法撮影の補助(Ⅱ)	・口内法の実際的撮影方法について歯牙ごとに理解する。
6			口外法撮影の補助	・口外法撮影の種類及びその検査目的を理解する。
7			フィルムの現像と処理	・エックス線撮影後のフィルム処理の過程及び保管法を理解する。
8			放射線防護	・放射線の生物学的作用を理解し、その防護方法について学習する。
9			放射線治療	・放射線の生物学的作用を利用した口腔癌に対する放射線治療について理解する。
10			その他の関連知識 (核医学、CT、MRI、超音波など)	・核医学、ｴｯｸｽ線CT、MRI、USとはどのようなものかを理解し、その検査目的を学習する。
11			口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
12			口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
13			パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
14			パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
15			まとめ・定期試験	

学科目	臨床検査法	担当者	引地　尚子
授業担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	最新歯科衛生士教本 臨床検査(医歯薬出版)

講義概要

基本的な生理機能と疾患との関連に基づいて導き出させる臨床検査が示す、意味について全身的に講義を進める。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
1			臨床検査の意義と概要について
2			生体検査(生理機能検査)
3			生体検査(生理機能検査)
4			生体検査(生理機能検査)
5			生体検査(生理機能検査)
6			検体検査(一般検査・血液学的検査)
7			検体検査(一般検査・血液学的検査)
8			検体検査(生化学的検査)
9			検体検査(生化学的検査)
10			微生物学検査
11			病理検査
12			口腔領域の臨床検査
13			口腔領域の臨床検査
14			口腔領域の臨床検査
15			まとめ・定期試験

学習目標
・基本的な生理機能について復習する。 ・疾患によって変化する臨床検査値の変化についてその機序を学習する。 ・臨床において異常値を示した場合の対応について学ぶ。

学科目	保険請求事務	担当者	新庄　栄二
授業担当者の実務経験	歯科医師として市内で勤務経験を有する		
実施学年	3年	開講時期	3年前期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	歯科保険請求マニュアル (医歯薬出版)

講義概要

1.歯科保険診療制度の理解と請求事務の実際を習得する。
2.カルテからレセプトに実際の保険請求を演習する。
3.歯科衛生士としての文書提供や指導に関する記載要領を習得する。

成績評価の方法

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
1			カルテと請求明細書の書き方	・カルテの記載要領 ・主な歯科用語の略称の熟知
2			保険請求の仕組み	・レセプト記載要領 ・各種医学管理料
3			口腔外科	・抜歯、外科手術、麻酔、投薬 ・画像診断、諸検査
4			修復・歯内療法	・う蝕の修復処置、予防填塞、根管治療 ・若年・小児治療
5			補綴修復および欠損補綴	・歯冠修復の種類、ブリッジ ・有床義歯関連の診断・製作の手順 ・補綴に関連する管理指導料及び文書提供
6			歯周治療	・歯周基本結果、治療計画の立案 ・歯周基本治療、歯周外科、メンテナンス
7			在宅医療 歯科衛生士実地指導と諸文書提供	・歯科訪問治療における治療の流れ ・訪問歯科衛生指導の要領
8			まとめ・定期試験	

学科目	臨地・臨床実習	担当者	1年生担任
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	1年	開講時期	1年後期
単位数	1単位	テキスト及び参考資料	―

講義概要

机上で学んだ知識・技術を実際の医療現場に活用する。
実習を通じて、即戦力としての技術を習得し、歯科衛生士の仕事に対する理解を深める。
患者様への接し方、やさしい心配りの大切さを学ぶ。
口腔保健の専門職としての自覚と責任を持ち、これまでに習得した知識・技術を集約して、実践できる能力を養う。

成績評価の方法

実習レポート・出席状況等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容
			総合診療科
			歯科放射線科
			小児歯科
			保存治療科
			歯周病科
			義歯科
			矯正歯科
			口腔外科
			歯科麻酔科・ペインクリニック
			口腔インプラント科
			上記のうち、6科にて見学実習を
			実施する。実習は、1日1科とする。

学習目標
・九州歯科大学附属病院見学実習では、歯科医学の最先端である病院において、それぞれの医局の特徴を知り、学院にて学んだ知識や技術を再確認する。

学科目	臨地・臨床実習	担当者	2年生担任
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	2年	開講時期	2年前期・後期
単位数	5単位	テキスト及び参考資料	―

講義概要

・医療従事者として、医療という深く大きなものにかかわって、歯科衛生士という職業の重大さと責任を自覚していく第一歩となる。
・実際の診療・施設等での共同動作・歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導の流れを理解する。

成績評価の方法

実習評価表・実習レポート等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

回数	実施日	曜日	講義内容	学習目標
			臨床実習 指定臨床実習施設病院について、実習を行う。	・学内で習得した知識や技術を臨床の場において実践できる能力を身に付ける。 ・医療チームの一員として必要な能力を身につける。 ・専門職として自覚と責任を持つ。 ・歯科衛生士業務を実践するために必要な技能を身に付ける。
			九州歯科大学附属病院実習 総合診療科　歯科放射線科 小児歯科　保存治療科 歯周病科　義歯科 矯正歯科　口腔外科 歯科麻酔科・ペインクリニック 口腔インプラント科 のうち、6科にて実習を行う。	・歯科医療の最先端である病院にて、それぞれの医局の診療内容の特徴を知る。 ・学院で習得した知識や技術を各医局の場において実践していく技術、患者様とのコミュニケーション能力を身に付ける。
			臨地実習 介護実習　老健施設実習 幼稚園実習　人体解剖実習 障害者施設実習	・歯科診療室だけでなく、在宅における介護の知識を身に付ける。 ・他職種との連携の取り方を学ぶ。 ・医療チームの一員として必要な能力を身につける。 ・園児や障害者と接することで、その特性を知り、対象者に応じた指導法を考えていく。 ・人体の構造等について、解剖実習を通して学び、人の生命の大切さを学ぶ。

学科目	臨地・臨床実習	担当者	3年生担任
授業担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施学年	3年	開講時期	3年前期・後期
単位数	14単位	テキスト及び参考資料	―

講義概要

修得した知識や技術をより正確なものとし、歯・口腔及び全身の健康支援、歯周病の予防と高齢者・要介護者に対する専門性の向上及び医療チームの一員として必要な技能を身につける。専門性の確立及び人間的なコミュニケーション能力を身に付け、充実した実習をなし、机上理解でなく、臨床実習の現場で学び吸収をする。

成績評価の方法

実習評価表・実習レポート等の総合評価とする。

講義内容と学習目標

講義内容	学習目標
臨床実習 指定臨床実習施設病院にて、実習を行う。	前期 補助が出来るようになることを目標とする 器材器具の受け渡し・バキューム操作・ライティング・全顎の印象採得・セメント練和　等 後期 施術が出来ることを目標とする 前期の内容に加え、スケーリング・プロービング・歯面研磨・フッ素塗布・成人や高齢者に対する口腔保健指導・コミュニケーションを図る　等

客観的な指標の算出方法

・成績評価の客観的な指標としてＧＰＡを設定することによって、担当教員が個々の学生および保護者に対して学修支援を行う。

【グレードポイントの設定】

優：３．０、良：２．０、可：１．０、不可：０

【ＧＰＡの算出方法】

３．０×「優」の修得単位数＋２．０×「良」の修得単位数＋１．０×「可」の修得単位数／総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）

※小数点３位以下は四捨五入

・ＧＰＡは学期ごとに算出し、必要と判断された時には保護者との面談資料としても使用する。

卒業の認定に関する方針

・本学院に３年以上在学し、教育課程で定めた９５単位を習得しなければならない。

・卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。

・所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる

貸借対照表

令和 2年 3月31日

（単位　円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	《 1,592,250,488 》	《 1,599,740,209 》	《 △ 7,489,721 》
有形固定資産	(993,005,370)	(1,032,575,138)	(△ 39,569,768)
土地	270,751,214	270,751,214	0
建物	459,151,300	493,001,303	△ 33,850,003
構築物	62,636,045	58,034,734	4,601,311
教育研究用機器備品	76,897,554	86,797,015	△ 9,899,461
管理用機器備品	16,935,529	17,577,406	△ 641,877
図書	106,633,728	106,413,466	220,262
特定資産	(571,700,000)	(526,700,000)	(45,000,000)
その他の固定資産	(27,545,118)	(40,465,071)	(△ 12,919,953)
電話加入権	1,046,708	1,046,708	0
預託金	26,498,410	26,498,410	0
修学旅行預け金	0	12,919,953	△ 12,919,953
流動資産	《 328,080,999 》	《 293,774,544 》	《 34,306,455 》
現金預金	280,462,334	251,580,520	28,881,814
未収入金	47,618,665	42,194,024	5,424,641
資産の部合計	1,920,331,487	1,893,514,753	26,816,734
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	《 64,441,355 》	《 80,304,177 》	《 △ 15,862,822 》
長期借入金	15,890,000	26,190,000	△ 10,300,000
退職給与引当金	39,590,775	37,732,359	1,858,416
長期未払金	8,960,580	16,381,818	△ 7,421,238
流動負債	《 187,241,117 》	《 170,185,156 》	《 17,055,961 》
短期借入金	10,300,000	11,550,000	△ 1,250,000
未払金	12,702,139	13,675,167	△ 973,028
前受金	97,629,000	82,863,000	14,766,000
預り金	66,609,978	62,096,989	4,512,989
負債の部合計	251,682,472	250,489,333	1,193,139
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	《 2,503,753,929 》	《 2,480,069,286 》	《 23,684,643 》
第1号基本金	2,434,753,929	2,411,069,286	23,684,643
第4号基本金	69,000,000	69,000,000	0
繰越収支差額	《 △ 835,104,914 》	《 △ 837,043,866 》	《 1,938,952 》
翌年度繰越収支差額	△ 835,104,914	△ 837,043,866	1,938,952
純資産の部合計	1,668,649,015	1,643,025,420	25,623,595
負債及び純資産の部合計	1,920,331,487	1,893,514,753	26,816,734

資金収支計算書

平成31年 4月　1日から
令和 2年 3月31日まで

（単位　円）

収入の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	(485,592,000)	(485,587,750)	(4,250)
手数料収入	(10,576,000)	(10,572,150)	(3,850)
寄付金収入	(3,280,000)	(3,278,000)	(2,000)
補助金収入	(378,880,000)	(378,881,927)	(△ 1,927)
資産売却収入	(0)	(0)	(0)
受取利息･配当金収入	(182,000)	(180,593)	(1,407)
雑収入	(50,813,000)	(50,813,639)	(△ 639)
借入金等収入	(0)	(0)	(0)
前受金収入	(97,630,000)	(97,629,000)	(1,000)
その他の収入	(84,631,000)	(84,626,966)	(4,034)
資金収入調整勘定	(△ 130,490,000)	(△ 130,481,665)	(△ 8,335)
前年度繰越支払資金	(251,578,922)	(251,580,520)	
収入の部合計	1,232,672,922	1,232,668,880	4,042

（単位　円）

支出の部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
人件費支出	(668,614,000)	(668,606,650)	(7,350)
教育研究経費支出	(138,356,000)	(138,354,499)	(1,501)
管理経費支出	(44,073,000)	(44,069,669)	(3,331)
借入金等利息支出	(306,000)	(305,430)	(570)
借入金等返済支出	(11,550,000)	(11,550,000)	(0)
施設関係支出	(6,510,000)	(6,509,853)	(147)
設備関係支出	(4,417,000)	(4,416,179)	(821)
資産運用支出	(70,000,000)	(70,000,000)	(0)
その他の支出	(13,678,000)	(13,675,167)	(2,833)
資金支出調整勘定	(△ 5,282,000)	(△ 5,280,901)	(△ 1,099)
翌年度繰越支払資金	(280,450,922)	(280,462,334)	(△ 11,412)
支出の部合計	1,232,672,922	1,232,668,880	4,042

財 産 目 録

令和2年3月31日

《資産の部》

（単位　円）

種　別	摘　　要	金　額
土　地		270,751,214
建　物		459,151,300
構　築　物		62,636,045
教育研究用機器備品		76,897,554
管理用機器備品		16,935,529
図　書		106,633,728
特　定　資　産		571,700,000
電話加入権		1,046,708
預　託　金		26,498,410
現金・預金		280,462,334
未　収　入　金		47,618,665
資　産　の　部　合　計		1,920,331,487

《負債の部》

（単位　円）

種　別	摘　　要	金　額
長期借入金		15,890,000
退職給与引当金		39,590,775
長期未払金		8,960,580
短期借入金		10,300,000
未　払　金		12,702,139
前　受　金		97,629,000
預　り　金		66,609,978
負　債　の　部　合　計		251,682,472
正　味　財　産		1,668,649,015

令和元年度　事業報告書

１．法人の概要

法　人　名	学校法人　美萩野学園	理事長名	権　堂　竹　虎
所　在　地	福岡県北九州市小倉北区片野新町1-3-1	電話番号	093-921-1331
設立年月日	昭和26年3月12日	資産の総額	1,668,649千円(令和2年3月末現在)
目　　的	この法人は教育基本法・学校教育法及びその他の教育に関する法令に従い、心身の発達に応じて高等普通教育及び中等普通教育、並びに専門教育を施し、以て人間性の陶冶に努め、国家及び社会の有為な形成者として必要な資質を養うことを目的とする。		

設置する学校名	課　程	科　別	入学(入園)定数	入学(入園)実数	5月1日生徒(園児)数		5月1日本務者数	
					定員	実員	教員数	職員数
美萩野女子高等学校	全日制	普通科	100	40	300	99	44	6
		商業科	80	35	240	105		
		看護科	70	83	210	226		
		看護専攻科	70	51	140	97		
小倉日新館中学校			100	106	300	311	18	6
美萩野保健衛生学院	専門課程		50	23	150	88	6	2

①事業の概要

１　教育事業

美萩野女子高等学校

１　学力の向上

時間割作成や変更に工夫を重ね、授業時間数の確保を図った。また、生徒の理解に応じて、授業外の時間に補習授業を行うなど、生徒の学力向上に努めた。今後は、ＩＣＴ教育を充実させ、学習意欲を高め、学力向上を図っていく。
また、令和４年度から始まる新教育課程の編成を行った。

２　生活指導

正しい制服の徹底と時に応じた挨拶と言葉遣いを指導の軸として、問題行動の防止につとめた。また、生徒の現状に合わせた生徒指導マニュアルの改訂を行い、内容の充実を図った。その結果、退学者の減少と学校謹慎になる生徒が０名ということに繋がった。さらに、茶道の授業を全学科で実施したことで躾や心の教育の充実を図った。来年度も教職員が粘り強く生徒と向き合い、きめ細かい指導を実践していく。

３．環境美化

日々の積極的に清掃活動を行う中で、校内外の美化と公共心の育成につとめた。その結果、オープンスクールで来校した中学生や保護者の感想に、校舎の清掃がきちんとしていると記述されていることにも反映されている。また、企業や、上級学校の職員の方も清掃の充実を話題にされている。来年度もこれまでに培ってきた校内外の美化活動にしっかり取り組む一方で、自発的に清掃活動に取り組む姿勢を養っていく。

４　進　　学

普通科進学コース１９名、商業科１２名、及び看護科より進路変更のため１名、合計３２名の生徒が専門学校以上に進学し、看護専攻科へは６４名が進級した。
なお、４年制大学には、５名（国公立大学１名）が合格した。進学希望者に対する決定率は１００％である。

５ 就　　職

求人数はほぼ昨年と変わらず８００名程度であった。学校紹介によって就職を希望する生徒（普通科進学コース８名、商業科１６名）計２４名全員が内定を得ることができた。本年度は、例年１名程度の県外就職希望者が４名いたことが特徴的であった。

学校紹介希望者に対する内定率は１００％となった。

６ 看 護 科

高校では、基礎学力向上として定期考査だけでなく、日本語検定、英語検定、漢字検定の実施をした。また戴帽テストや進級テストを実施することで、知識の定着ができるように取り組んだ。さらに進級テストでは、技術面でのテストを課すことで知識だけでなく、技術も向上できるように取り組んだ。３学年になり転学した生徒が１名、本科を卒業したが専攻科へ進級しなかった生徒が２名あり、６４名が専攻科へ進級した。

看護専攻科では、２年間を通じ学生の自主・自立支援に重点を置き、看護専門職業人として身に着けるべき能力と情報を判断し統合する対応力を習得できるように継続した教育活動に取り組んだ。専攻科２年修了生４５名の受験状況は、令和元年度福岡県准看護師試験４５名：合格率１００％、第１０９回看護師国家試験４３名：合格率９５．６％。就職内定率は１００％という結果になった。

７ 教 職 員

スタディサプリ導入やＩＣＴ教育研究等に取り組み、今後の教育活動を見据えた教育活動を行った。

広報活動においては、コンサルタントとの連携強化２年目となり、より一層の強化を図ることができた。毎回学校説明会の内容を工夫し、入学者巣の増加に努めた。

コミュニケーションを上手にとりながら、学科を超えて連携していくことが重要である。

小倉日新館中学校

１ 教科指導

（１）生徒一人ひとりに応じたわかる授業を工夫し、確かな学力の向上を図ることができた。

（２）数学科・英語科の習熟度別学級編成による授業を通して、学習意欲の向上、学習習慣の定着を図った。

（３）実力テストの結果を学年・教科で分析し、授業改善に役立てた。

２ 生徒指導

（１）規律の維持、基本的な生活習慣の確立が図れた。

（２）愛校心、自主自律・創造立志の精神を全教育活動を通して、浸透させることができた。

３ 学校行事

（１）九重全校合宿（１年から３年までの縦割り班による集団生活，３泊４日）、関西教育合宿（２年の３学期，３泊４日）を通して，級友と教師が起居を共にし、団体行動における規律ある態度や好ましい人間関係づくり、自学自習の態度を育成することができた。

（２）体育会、校内マラソン大会、１・２年の早朝寒稽古は、「鍛える日新館」のイメージの確立、生徒一人ひとりの精神的支柱づくりに大きく貢献した。

４ 保護者・地域との連携

（１）学校通信「日新館」、学年通信やホームページで学校生活の様子、学習の状況を保護者に報告している。また、学年懇談会や「日新会」の総会を通して、保護者との連携を深めてきた。

（２）入試説明会、招待模試の実施を通し、幅広く生徒の受け入れ態勢の整備に努めた。

美萩野保健衛生学院

１ 学力の向上
実習教育（基礎実習、臨床基礎実習、臨床実習）を重視し、関係機関の温かい協力を得てマンツーマン方式で個別指導を行い、学力向上をはかった。

２ 生活指導
医療従事者として、恥ずかしくない身だしなみを指導した。

３ 補助活動事業

なし

４ 収益事業

なし

５ その他の事業

美萩野女子高等学校

①本館屋上一部防水工事　②校地東側ブロック塀撤去及びフェンス新設工事
③校地内駐車場アスファルト補修等工事　④学生募集活動支援業務委託
⑤部活動外部コーチ派遣　⑤スタディサプリ試験導入（２年１組）

小倉日新館中学校

①男子生徒更衣室整備（2階～4階）　②校舎照明ＬＥＤ化工事（2階～4階教室及び廊下）
③屋上高架水槽遮光塗装補修工事　④校舎外周補修工事（爆裂・塗装補修等）
⑤各階男子トイレ入口扉補修工事　⑥中央階段塗装等改修工事（1階～5階）

美萩野保健衛生学院

①学生募集活動支援業務委託　②学院案内・ホームページ他更新
③図書室移設

６　理事会･評議員会開催状況

第1回理事会
日時　令和元年５月２３日　木曜日　１２時３０分
議題　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「任期満了に伴う評議員の推薦について」
第３号議案「任期満了に伴う評議員の選任について」
第４号議案「任期満了に伴う監事候補者の選出について」

第1回評議員会
日時　令和元年５月２３日　木曜日　１３時
議題　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「平成３０年度事業実績及び収支決算報告について」
第３号議案「任期満了に伴う評議員の選任について」
第４号議案「任期満了に伴う役員の選任について」
第５号議案「任期満了に伴う監事候補者の同意について」
第６号議案「美萩野保健衛生学院の校舎各室の用途及び面積の変更について」

第2回理事会
日時　　令和元年５月２３日　木曜日　　１３時３０分
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「平成３０年度事業実績及び収支決算報告について」
第３号議案「任期満了に伴う役員の選任について」
第４号議案「理事長および理事長職務代行者の選任について」
第５号議案「美萩野保健衛生学院の校舎各室の用途及び面積の変更について」

第2回評議員会
日時　　令和元年９月１３日　金曜日　　１３時
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「美萩野女子高等学校の学則の一部変更について」

第3回理事会
日時　　令和元年９月１３日　金曜日　　１３時２０分
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「美萩野女子高等学校の学則の一部変更について」

第3回評議員会
日時　　令和元年１２月５日　木曜日　　１３時
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「寄附行為の一部変更について」

第4回理事会
日時　　令和元年１２月５日　木曜日　　１３時２０分
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「寄附行為の一部変更について」

第4回評議員会
日時　　令和２年２月１４日　金曜日　　１３時
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「不動産の売却について」

第5回理事会
日時　　令和２年２月１４日　金曜日　　１３時２０分
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「不動産の売却について」

第6回理事会
日時　　令和２年３月１７日　火曜日　　１２時４５分
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「評議員の推薦について」

第5回評議員会
日時　　令和２年３月１７日　火曜日　　１３時
議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」
第２号議案「令和２年度事業計画及び収支予算案について」
第３号議案「３６協定の締結について」
第４号議案「就業規則の一部変更について」
第５号議案「役員報酬等の支給基準について」
第６号議案「評議員の補充選任について」

第7回理事会

日時　　令和２年３月１７日　火曜日　　１３時３０分

議題　　第１号議案「議事録署名人の選出について」

第２号議案「令和２年度事業計画及び収支予算案について」

第３号議案「３６協定の締結について」

第４号議案「就業規則の一部変更について」

第５号議案「役員報酬等の支給基準について」

第６号議案「評議員の補充選任について」

第７号議案「美萩野女子高等学校長、美萩野女子高等学校長及び美萩野保健衛生学院長の任免及び理事等の変更について」

３．財務の概要

別紙決算書参照

監　査　報　告　書

令和２年　５月２６日

学校法人　美　萩　野　学　園

理　　事　　会　　御中

評　議　員　会　　御中

学校法人　美　萩　野　学　園

監　事　　浜　崎　　力

監　事　　安　倍　英　史

私立学校法第３７条第３項に基づいて、学校法人美萩野学園の令和元年度における財産目録及び計算書類、業務及び財産並びに理事の業務執行状況に関し、令和２年５月２６日監査を行いました。

監査の結果、同学校法人の業務及び財産並びに理事の業務執行状況に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する行為は認められず、適正に処理されていましたことを報告します。

学校法人　美萩野学園
美萩野保健衛生学院

令和元年度　自己点検評価報告書

令和２年６月２７日

４：適切　　３：ほぼ適切
２：やや不適切　１：不適切

ガイドラインの評価・項目	学校が設定する評価項目	自己評価
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目標を学生が理解しているか	3
	教育計画は学生の実態に即しているか	4
	将来の構想を持っているか	4
	職業教育の特色は明確か	4
(2)学校運営	運営方針に沿った事業が行われているか	4
	情報公開が適切に行われているか	3
	教務・財務等の組織整備が適切か	4
(3)教育活動	教育理念に沿った教育が行われているか	4
	カリキュラムは体系的に構成されているか	3
	シラバスは適切な内容か	3
	成績評価基準は明確になっているか	4
	各教科の時間配分は適切か	4
4)学修成果	資格取得に向けた取組がなされているかし	4
	就職率の向上に向けた取組がなされているか	4
	退学者の低減に向けた取組がなされているか	4
(5)学生支援	就職に向けた支援体制が整備されているか	4
	学生相談の支援体制が整備されているか	4
	学生の健康管理の体制は整備されているか	4
	保護者と適切に連携しているか	4
(6)教育環境	施設・設備は充分に整備されているか	3
	防災対策は整備されているか	4
(7)学生の受入れ募集	学生募集は適正に行われているか	4
	学納金は妥当なものとなっているか	4
(8) 財務	中長期的に財務基盤は安定しているか	3
	財務にいて会計監査が適正に行われているか	4
	財務情報公開の体制はできているか	4
(9) 法令などの遵守	個人情報保護対策がとられているか	4
	自己評価結果を公開しているか	4

学校法人　美萩野学園
美萩野保健衛生学院

令和元年度　学校関係者評価委員会報告書

学校法人美萩野学園美萩野保健衛生学院は令和元年度学校自己点検・自己評価結果に基づいて、令和２年６月27日に学校法人美萩野学園関係者評価委員会を実施しましたので、以下のとおり報告します。

１．学校関係者評価委員

名　前	所　属	出　欠
野田　節子	日新館中学校	出　席
久富　利律	藤崎歯科医院	出　席
喜佐田　由美	美萩野保健衛生学院（事務局）	出　席
大久保　周	美萩野保健衛生学院（事務局）	出　席

２．報告事項

ガイドラインの評価・項目	評価・意見など
(1)教育理念・目標	「教育理念」、「教育計画」は、自己点検報告書の通り、妥当であると評価された。
(2)学校運営	「運営方針に沿った事業」、「教務や財務の組織整備」については妥当であると評価された。「情報公開」については遅れている部分がある為、早急に改善することで意見が一致した。
(3)教育活動	「教育理念に沿った教育」「成績評価の基準」「各教科の時間配分」については、妥当であると評価された。「カリキュラム」については、3年制カリキュラム内容を双方で協議し、該当学年の変更や講義科目の検討がなされた。見直しを行い、時代に即したものとなるように改善することで意見が一致した。「シラバス」においては、教科書の内容改訂や疾患の分類変更等があるため、最新の講義内容となるよう努めていくことで意見が一致した。
(4)学修成果	修学成果全般において適切に行われており、妥当であると評価された。

(5)学生支援	学生支援全般において適切に行われており、妥当であると評価された。
(6)教育環境	「施設・設備」「防災対策」の整備については、妥当であると評価された。施設の老朽化に伴い、不備な部分はあるが、雨漏り改修、換気扇の設置等、環境の改善は見られた。
(7)学生の受け入れ募集	妥当であると評価された。歯科衛生士学校を受験する方をいかに増やしていくか、双方で協議した。多方面に働きかけ、歯科衛生士の知名度を上げていくことが大事で、そのためには卒業生にもご協力いただき、もっと歯科衛生士をアピールしてもらいたいということで意見が一致した。
(8)財務	特に問題なし。
(9)法令などの遵守	特に問題はなく妥当であると評価された。

確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

学校名　美萩野保健衛生学院

課 程 名	歯科衛生士専門課程		
学 科 名	歯 科 衛 生 士 学 科		
修業年限	学　　級	入学定員	総 定 員
３カ年	1	５０名	１５０名

様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人　美萩野学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
歯科衛生士専門課程	歯科衛生士学科	夜・通信	５５単位	９単位	
		夜・通信			
		夜・通信			
		夜・通信			
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人　美萩野学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元公立高等学校校長	2019.5.23 ～2024.5.22	学校教育全般に関するアドバイス
非常勤	元私立高等学校教諭	2019.5.23 ～2024.5.22	高等学校看護科等の教育に関するアドバイス
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人　美萩野学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

〈授業計画書の作成・公表にかかわる取り組みの概要〉

・授業計画書（シラバス）の作成過程
　講義担当者と相談の上、改善している。

・到達目標について
　国家試験合格のために必要な知識の習得を目標としている。

・成績評価の方法
　定期試験を基本としている。
　定期試験の合格点は、どの科目も１００点満点中６０点を合格点としている。
　実技試験が必要な科目については、専任教員が担当している

・授業計画書の作成、公表時期
　前年の３月までに講義担当者と相談の上、作成している。
　４月ころに公表できる体制を整えている。

授業計画書の公表方法	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

・学科試験は、科目ごとに筆記試験、実技試験等により行う。

・成績評価の基準
　優８０点以上、良７０点以上、可６０点以上を合格とし、
　５９点以下を不合格とする。

・学科試験で不合格のものは、再試験を受けることができる。

・再試験は６０点以上を合格とする。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

・成績評価の客観的な指標としてＧＰＡを設定することによって、担当教員が個々の学生および保護者に対して学修支援を行う。

【グレードポイントの設定】優：３．０、良：２．０、可：１．０、不可：０

【ＧＰＡの算出方法】
３．０×「優」の修得単位数＋２．０×「良」の修得単位数＋１．０×「可」の修得単位数／総履修登録単位数（「不可」の単位数を含む）
※小数点３位以下は四捨五入

ＧＰＡは学期ごとに算出し、必要と判断された時には保護者との面談資料としても使用する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

・本学院に３年以上在学し、教育課程で定めた９５単位を習得しなければならない。

・卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。

・所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる

卒業の認定に関する方針の公表方法	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	美萩野保健衛生学院
設置者名	学校法人　美萩野学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report
収支計算書又は損益計算書	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report
財産目録	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report
事業報告書	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report
監事による監査報告（書）	http://www.mihagino-dh.ac.jp/report

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療	歯科衛生士専門課程	歯科衛生士学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	３０３０／９５ 単位時間／単位	１５４５ 単位時間／６０単位	３０ 単位時間／２単位	１４２５ 単位時間／32 単位	０単位時間／０単位	３０ 単位時間／１単位
			３０３０／９５　単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
１５０人	９３人	０人	４人	５２人	５６人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） ・授業方法 講義を中心に実施している。ＰＣ、ＤＶＤ、ビデオなどを利用する。 ・内容 授業計画に基づき、実施している。 ・年間の授業計画 前年度の講義、実習内容をもとに各講義担当者と各専任教員で内容を検討する。 その内容検討分をもとに学院内で全学年の現状と合わせて再検討する。 次年度の方針が決り次第、カリキュラムを作成していく。

成績評価の基準・方法
（概要） ・各科目の成績評価は、定期試験により行う。 ・成績評価の基準 　優８０点以上、良７０点以上、可６０点以上を合格とし、５９点以下を不合格とする。 ・定期試験で不合格のものは、再試験を受けることができる。 ・再試験は６０点以上を合格とする。
卒業・進級の認定基準
（概要） ・本学院に３年以上在学し、教育課程で定めた９５単位を習得しなければならない。 ・卒業の認定は、卒業認定会議を経て学院長が認定する。 ・所定の単位数を取得した者は、専門士を称することができる。
学修支援等
（概要） ・国家試験対策として、模擬試験を数多く実施する。 ・講義担当者が国家試験対策用講義を実施し各科目の理解度を高めるよう指導する。 ・成績不信者は、放課後少人数で補講を行い、成績向上を図り、合格に導く。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
３６人 （１００％）	０人 （　０％）	３６人 （　１００％）	０人 （　０％）
（主な就職、業界等） 　歯科医院（個人）、大学病院			
（就職指導内容） ・求人票を掲示し、学生がいつでも閲覧できるようにしている。 ・9 月頃、就職希望調査を実施している。 ・就職指導資料を配布し、履歴書の書き方、就職活動の進め方や面接時のポイントなどの説明を行っている。 ・個人面談を何度も実施し、就職が決定するまで担任を中心に専任教員で対応している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 　歯科衛生士国家試験合格率は、全国平均を上回っている。			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
８８人	１人	１．１％
（中途退学の主な理由） 進路変更のため		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・各学年で５月～6月にかけて個人面談を行う。 ・朝礼にて出席状況を把握し、欠席や遅刻が続く場合は保護者に連絡を取り、状況確認を行う ・日頃から学生に声掛けをする。他の専任教員と連絡を密にし、気になる学生には、個人面談を行う。		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料（年間）	その他	備考（任意記載事項）
歯科衛生士学科	250,000 円	400,000 円	260,000 円	
	円	円	円	
	円	円	円	
	円	円	円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） http://www.mihagino-dh.ac.jp/report		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
専修学校教育の発展を目指した評価を行う事が重要である。 学校自己評価に対する意見や評価を受け、質の高い職業教育が出来るよう、学校運営の改善と課題を見出す。「専修学校における学校評価ガイドライン」に則り、実施することを基本方針とする。評価委員の構成は、本校卒業生で構成する。定員は２名とし、毎年４月に委員会を開催する。評価委員会で評価された内容は、学校長ならびに本校の職員会議で報告し、解決に向けた取り組みや解決すべき課題とされた項目については、学校長ならびに本校の職員会議等で協議を図り、解決に向けた準備や検討、実施を図ることとする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
小倉日新館中学校	２０２０年４月　１日～ ２０２２年３月３１日	本校卒業生
藤崎歯科医院	２０２０年４月　１日～ ２０２２年３月３１日	本校卒業生
学校関係者評価結果の公表方法		
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） http://www.mihagino-dh.ac.jp/report		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） http://www.mihagino-dh.ac.jp/report